

ソーシャルワークの理論と実践をつなぐ研究を目指して ～社会福祉実践の現場にかかわる研究活動～

社会福祉学は「実践の学」といわれます。社会福祉研究（特にソーシャルワーク研究）では、実践活動や現場からの学びと実践活動や現場への貢献が求められます。しかし、実践現場や実践者とのかかわる研究活動については、「現場や実践者にかかわるきっかけはどこで得られるのか」「どうやって現場や実践者と協力関係をつくっていったらいいのか」「研究者が現場に行くと嫌がられるのではないか」「現場に根ざした実践的な研究に取り組みたいけどどうしたらいいのか」などの声も聞かれます。

今回40回目となる若手研究者・院生情報交換会では、社会福祉実践の現場や実践者にかかわり、理論と実践とをつなぐ研究活動の実際や、その意義と可能性、またその魅力や醍醐味について、皆さんとともに学び、分かち合いたいと思います。

当日のプログラムは下記の通りです。第1部は、実践現場とのかかわりを大切にしながら教育・研究活動に取り組んでいる発題者から、自らの研究活動に伴う現場とのかかわりや実践者との関係、またそのような研究活動の意義や成果などについて報告します。続く第2部は、参加者のみなさんからの質疑応答も含めて、「ソーシャルワークの理論と実践との関係」「研究者と実践者との連携・協働」「現場実践と研究活動との連動」などについて、みなさんで意見交換（発題者とのクロストーク）ができればと思っています。

終了後は付近の会場での懇親会も予定しています。どうかお気軽にご参加下さい。これからの社会福祉研究を担う、若手研究者や大学院生をはじめとした皆さんのご参加をお待ちしています。

記

日時 2017年9月1日（金）14:00～17:10

場所 同志社大学 室町キャンパス 寒梅館（かんばいかん）6F 大会議室

*京都市営地下鉄「今出川」駅下車2番出口を出て北側に徒歩1分の左側の建物です。

*会場は門衛所横の入り口すぐのエレベーターで6F降りて右側奥の部屋です。

第1部（14:00～15:45）ミニ・シンポジウム

「ソーシャルワークの理論と実践をつなぐ研究を目指して

～社会福祉実践の現場にかかわる研究活動～

発題1「地域福祉の現場にかかわる研究活動」永田 祐（同志社大学）

発題2「当事者組織の現場にかかわる研究活動」森口弘美（京都府立大学）

発題3「社会福祉施設の現場にかかわる研究活動」空閑浩人（同志社大学）

（趣旨説明及び全体司会：空閑浩人）

第2部（16:00～17:10）質疑応答・クロストーク・意見交換

懇親会（17:30頃～ 大学付近の会場で予定しています。

会費は4000円、院生の方は2000円程度の予定です。）

参加希望者は、懇親会の参加の有無も含めて、下記までメールでお申し込みください。会場予約や資料作成等準備の都合上、**8月25日（金）まで**にご連絡いただけると幸いです。よろしく申し上げます。

【参加申込み・問い合わせ先】

企画担当：同志社大学 空閑（くが）浩人 E-mail:hkuga@mail.doshisha.ac.jp

